

サネカズラ *Kadsura japonica* (L.) Dunal (マツブサ科 Schisandraceae)

埼玉県坂戸市から毛呂山町へかけての武蔵丘陵の山々を歩くと、植林された杉林の樹下に冬でも青々としたつる性の植物をよく見かけます。これがサネカズラです。ヒメカズラ、ピンツケカズラ、ナメカズラ、トロロカズラなどの多くの方言がありますが、これらはその用途から名づけられたものです。用途とは髪付け、すなわち、主に日本髪を結う時、おくれ毛を止め、髪のかたちを固めるのに用いる整髪料としての用途です。つるを水に浸し、その粘液で髪付けし光沢を出したそうです。従って本植物にはピナンカズラ（美男葛）というなかなか粋な別名もあります。

サネカズラは、かつてはモクレン科に分類されていましたが、植物分類学の進歩に伴い、今ではマツブサ科に分類されています。7～8月頃、1cm位の小さな淡黄色の花をつける常緑無毛のつる性木本で、雄花と雌花があり、雄花には葯隔が大きく広がった赤い雄しべが多数あり、雌花には離生する心皮が螺旋状に多数配列しています。本植物は雌雄異株とされることがありますが、同じ茎に雄花と雌花の両方をつけることも珍しくなく、基本的には雌雄同種と考えられ、まれに両性花をつけることもあるそうです。葉は楕円形で厚ぼったく、上面には光沢があり、また、先がやや尖り、縁にはまばらに鋸歯があります。秋にはまるで和菓子の「鹿の子餅」のような真っ赤な房状の果実をつけ、鎮咳、滋養



写真1 サネカズラ（雄花）



写真2 サネカズラ（雌花）

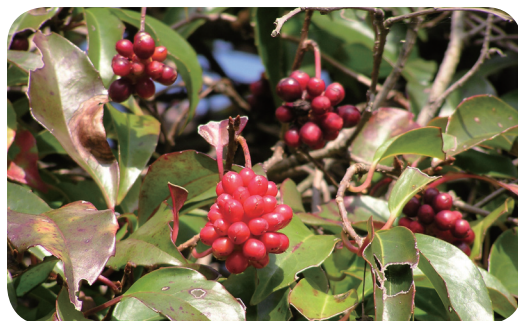


写真3 サネカズラ（果実）



写真4 チョウセンゴミシ（花）



写真5 チョウセンゴミシ（果実）



写真6 ゴミシ（五味子）

強壮薬として用いられます。属名の *Kadsura* は日本語の葛（カズラ）に由来し、和名のサネカズラは「実葛」の意味で果実が美しく目立つことによるそうです。日本では本植物の実を南五味子と言いますが、中国では *Schisandra sphenanthera* を南五味子と言います。また、漢方薬の小青竜湯（ショウセイリュウトウ）、人参栄養湯（ニンジンエイヨウトウ）などに鎮咳、鎮静などの目的で配剤される五味子（ゴミシ）はチョウセンゴミシ *Schisandra chinensis* が基原植物で、こちらは中国北東部～朝鮮半島、本州の近畿地方から北海道にかけて分布し、軽井沢近辺にも自生している落葉つる性木本で、北五味子と言います。五味子とは酸、苦、甘、辛、鹹（カン）の五味を持つ果実の意だそうです。なるほど、噛むと苦いような酸っぱいような複雑な味がします。

また、サネカズラは、お正月のかるたでおなじみの小倉百人一首に「名にし負はば逢坂山のさねかづら人に知られてくるよしもがな」という三条右大臣の歌で登場いたします。